

## 「絵本ノート」作成における一考察

—保育科学生における絵本 100 冊読みへの挑戦、そして成果と  
課題—

皆川 晶

An observation on making notes on “picture books”

— On the problems, practice and its results of reading 100  
picture books to children by the students of Nursery  
Department—

Aki Minagawa

### Abstract

It is desirable for the students who want to be nursery teachers to read many picture books to children. Considering the situation students of Nursery Department are advised to read 100 picture books from the first half of the term of the first year to the first half of the term of the second year and moreover the students were forced to make ‘picture notes’ recording something students want to teach through what children want to tell, that is, the contents and characteristics of picture books, feelings they had. At the time of finishing their note-making the students send out the questionnaires and consider their results and problems on the basis of their picture notes, concerning of achievement feelings and reflections and researches of library utilization.

**Keywords:** picture book education, library utilization, nursery teacher training, sense of achievement, summery ability

### 1、はじめに

学校教育法に「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門

の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする」とある。学生にとって、「大学教育の本分を見失わない唯一の方法は、学業に意欲的に取り組むことが、大学生生活の満足度にも繋がり、ひいては将来のキャリアにも繋がることを明示する」（見館・永井・北澤・上野, 2008）ことになる。学業に意欲的に取り組み、そこで満足感を得ることが学生生活の充実度につながるのである。

本学保育科の学生は、将来保育者を目指していることから、大学で学ぶ目的がはっきりとしている。目標をもっているので、授業にも意欲的に取り組んでいるように見える。しかし、そこには学生が自発的に学習し、学業において達成感や満足感を生み出せているのか疑問をもった。

保育科に所属する教員として、保育者を目指す学生にどのような支援ができるのか。子どもに大きな影響を与える保育者となる学生に、どのようなことを学んで欲しいのかを模索していた。そのようなときに、鈴木（2012）の実践する「絵本 100 冊読みノート」に出合った。絵本にはさまざまな世界が凝縮され、子どもの想像力を広げ、言語能力・思考力・集中力・理解力を育むことができる。子どもの育ちに大きく関わる絵本に、学生の間にも多く触れて欲しいと思い、「絵本 100 冊読みノート」に取り組むことにした。

『保育所保育指針』に「絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わう」とあり、絵本は言葉を獲得することや想像力を広げるためによい環境である。さらに、保育の現場でも絵本の読み聞かせは毎日行っており、その効果として、「言葉が増えた」「言葉を模倣するようになった」「集中力が高まった」「自分の思ったことを大人へ伝えようとするようになった」「子どもが落ち着いてきた」「笑顔や喜ぶ姿が見られる」「子どもたちとのコミュニケーションがスムーズになった」<sup>1)</sup> などが見られる。このように絵本の読み聞かせは子どもの語彙を増やすだけではなく、子どもの成長を育むうえで必要な環境であることがわかる。

よって、保育を学ぶ本学保育科学生により多くの絵本に触れてもらうために、絵本を 100 冊読むことを目標とし、「絵本ノート」<sup>2)</sup> 作成を実施することにした。絵本を読み、「絵本ノート」を作成することにより、絵本のすばらしさはもちろんのこと、絵本に対しての考え方、学生自身の変化など、絵本をとおしてどのような成果と課題があったのかを考察していく。

## 2、「絵本ノート」の取り組み

絵本 100 冊読みと「絵本ノート」の作成に関する内容は、鈴木（2012）を参考にし、本取り組みに関しての了解を得て進めていった。

絵本を 100 冊読むことは、強制せずに、あくまでも「目標」にした。それは、今回「絵本ノート」に取り組む学生の 9 割に読書習慣がないこと、過去 1 年間を通じて読書を全くしていない学生が 27.9%いたこと<sup>3)</sup> から、無理なく読み、絵本を楽しんで欲

しいという思いから、100冊を強制せずに、読む量は学生に任せた。

「絵本ノート」を作成する目的と意図として、学生には、絵本は子どもの言葉の育ちに役立つことを念頭に意識づけをした。さらに、保育園や幼稚園での実習では、絵本の読み聞かせをしなければならないことを話し、現実感をもたせた。絵本を読んだときには、さまざまな感動や感想をもつが、時間の経過と共に忘れてしまうので、それを書きとめることが大切であること、ノートに書きとめることによって、半永久的に使え見返しができること、さらにそのノートが保育者となったときに必ず役に立つということを強調した。さらに保育の現場は忙しく、絵本を探す時間を作るのが困難になってくるので、学生の間に1冊でも多くの絵本に触れ、今後のための資料にして欲しいことを伝えた。特に、自分自身のために「絵本ノート」を作成するということを強調した。

「絵本ノート」作成の方法は、ノートを1冊用意し、1ページに1冊の絵本についての事柄を記入する。その事柄は、以下の11項目である。

①通し番号 ②題名 ③作者・絵を描いた人の名前 ④出版社 ⑤絵本に出てくる人物やキャラクター ⑥絵本を通じて、子どもに伝えたいこと ⑦およそ何歳児向けの絵本か ⑧絵本の内容・特色 ⑨絵本の感想 ⑩どのようなときに読むのがおすすめか ⑪書いた日の日付

さらに、目次として通し番号と題名を書く用紙を用意し、ノートの裏に貼るようにした。読む絵本に偏りをなくするために、シリーズ化されているものは、3冊以内にすること、日本の昔話は10冊以上読むこととした<sup>4)</sup>。ノートは上記の11項目を書けば、あとは絵やイラストを描いても、色を使ってもよいとし、絵本の表紙のコピーを縮小して貼るなど、学生の個性に任せた。

絵本を読む、「絵本ノート」を書くということを定着させるために、期限内に絵本を読む目標冊数を決めた。しかし、学生の負担にならないためにも、冊数は決めたものの、各学生の自主性に任せた。これは、担当する授業（「国語表現法」「言語表現」「言葉（指導法）」）の中での取り組みと位置づけし、1年生の前期（4月）から始め、2年生の前期終了時（7月）の実質1年3カ月の期間で実施した。絵本を読む目標冊数は、1年前期「国語表現法」終了時（7月）に20冊、夏休みに20冊、1年後期「言語表現」終了時（1月）に20冊、春休みに20冊、2年前期「言葉（指導法）」終了時に20冊で、合計100冊とした。「絵本ノート」は、「国語表現法」終了時、「言語表現」の第2回目の授業日と終了時、「言葉（指導法）」の第2回目の授業日と終了時、合計5回提出させた。提出の際は、冊数、11項目を書いているか、特に11項目の中の⑥⑧⑨を的確に書けているか、自分なりに工夫がされているかを確認し、コメントを書いて返却した。

### 3、アンケート調査について

絵本100冊読みと「絵本ノート」作成のまとめとして、アンケート調査用紙を事前

に渡し、平成 29 年 7 月 10 日に提出してもらった。提出者は 55 名、未提出者は 4 名であった。調査内容は以下のとおりである。

- ①絵本を何冊読みましたか。
- ②「絵本ノート」を作成することで、何か自分に変化がありましたか。
- ③「絵本ノート」を作成することは自分のためになったと思いますか。そう思う理由も書いてください。
- ④「絵本ノート」を作成することで、何か向上したことがありますか。
- ⑤「絵本ノート」を作成することによって、以前よりも図書館を利用するようになりましたか。
- ⑥図書館はどのくらいの割合で利用しますか。（絵本ノートに限らず、他の授業での利用も含む）
- ⑦読書をしますか。（絵本ノート・授業に関する書物、マンガ・雑誌は省く）
- ⑧あなたの好きな絵本を 5 冊教えてください。
- ⑨2 月の施設・保育園実習や 6 月の幼稚園実習で、絵本ノートは役に立ちましたか。
- ⑩「絵本ノート」作成により、たくさんの絵本を読んできましたが、たくさんの絵本を読むことで、あなた自身の感性や想像力は磨かれたと思いますか。
- ⑪保育者になるにあたって、たくさんの絵本を読んだことは、あなたの自信になりましたか。
- ⑫「絵本ノート」を作成したことで、達成感や満足感がありますか。
- ⑬「絵本ノート」を作成した感想を教えてください。
- ⑭「絵本ノート」についての感想、反省点、頑張ったことなど、自由に何でも書いてください。

#### 4、調査結果と考察

- ①絵本を何冊読みましたか。

| 冊数    | 人数 | %    |
|-------|----|------|
| 0～9   | 0  | 0    |
| 10～19 | 2  | 3.4  |
| 20～29 | 5  | 8.5  |
| 30～39 | 0  | 0    |
| 40～49 | 6  | 10.2 |
| 50～59 | 3  | 5.1  |



|       |    |      |
|-------|----|------|
| 60～69 | 15 | 25.4 |
| 70～79 | 9  | 15.2 |
| 80～89 | 10 | 16.9 |
| 90～99 | 2  | 3.4  |
| 100～  | 7  | 11.9 |

割合としては、60～69冊読んだ学生が25.4%と多く、平均としては66.8冊であった。最高は106冊で最低は14冊であったが、80冊以上読んだ学生は19名で32.2%おり、そのうち100冊以上読んだ学生は7名いた。さらに、77.9%の学生が50冊以上読んでいる。この結果はうれしい誤算であった。読書習慣のない学生が絵本を読み、さらに内容を分析してノートにまとめる。しかも、授業以外の時間で自主的にしなければならない。実施した期間に保育実習なども入り、他の授業での課題も多くある中で、これは学生たちの努力の結果である。

②「絵本ノート」を作成することで、何か自分に変化がありましたか。(複数回答可)

| 変化                  | 人数 |
|---------------------|----|
| 以前よりも図書館を利用するようになった | 35 |
| 絵本が好きになった           | 32 |
| 絵本を読むようになった         | 18 |
| 絵本の作者に興味を持った        | 12 |
| 挿絵に興味を持つようになった      | 9  |
| 言葉に興味を持つようになった      | 8  |
| 以前よりも書店に行くようになった    | 6  |
| 絵本がどんな内容か分かりやすくなった  | 1  |
| 特に変化はない             | 0  |

読書習慣のなかった学生たちが絵本を好きになり、絵本を通じて言葉や作者に興味を持つようになったこと、図書館や書店に行くようになったのは大きな変化である。

③「絵本ノート」を作成することは自分のためになったと思いますか。そう思う理由も書いてください。

はい → 54名

| 理由 | 人数 |
|----|----|
|----|----|

|                       |     |
|-----------------------|-----|
| 実習のときに役に立った           | 2 4 |
| いろいろな絵本を知ることができた      | 2 1 |
| 絵本の特徴・楽しさ・良さを知ることができた | 1 0 |
| 自分の好きな絵本を見つけることができた   | 4   |
| 絵本への理解が深まった           | 5   |
| 将来役立つと思う              | 6   |
| いつでも振り返ることができる        | 2   |
| 子どもの状態や年齢にあった絵本が分かった  | 2   |
| 言葉や表現について考えるようになった    | 3   |
| 図書館に通うようになった          | 2   |

いいえ → 1名

| 理由                  | 人数 |
|---------------------|----|
| ノートづくりを適当にやってしまったため | 1  |

取り組みの最中に実習があったので、現実的なこととして、「実習のときに役に立った」と回答した学生が多かった。

④「絵本ノート」を作成することで、何か向上したことがありますか。(複数回答可)

| 向上したこと            | 人数  |
|-------------------|-----|
| 読解力               | 2 4 |
| 本を読むのが早くなった       | 1 8 |
| 表現力               | 1 6 |
| 要約力               | 1 2 |
| 持続力               | 7   |
| 絵が上手になった          | 6   |
| 絵本の意味を深く考えるようになった | 2   |
| 絵本の読み方に工夫できる      | 1   |
| 想像力が豊かになった        | 1   |
| 読み聞かせがうまくなった      | 1   |
| 絵やイラストを描くのが早くなった  | 1   |
| 学びたいと思う力          | 1   |
| わからない             | 1   |
| 特にない              | 1   |

|       |   |
|-------|---|
| あまりない | 1 |
|-------|---|

読書習慣のない学生が「読解力」「要約力」が向上した、「本を読むのが早くなった」と自身で感じてくれたことはうれしい。今回対象は絵本であったが、ぜひこれを機会に読書することが身についてくれることを願う。

- ⑤「絵本ノート」を作成することによって、以前よりも図書館を利用するようになりましたか。

利用するようになった → 52名

あまり変わらない → 3名

学生の94.5%が以前より図書館を利用するようになったと回答した。「あまり変わらない」と答えた学生は次の⑥の質問で、図書館に「1週間に3～4回」行くのが1人、「ほとんど行かない」が1人、「あまり行かない」が1人であった。

- ⑥図書館はどのくらいの割合で利用しますか。(絵本ノートに限らず、他の授業での利用も含む)

| 割合       | 人数 |
|----------|----|
| 1週間に1～2回 | 41 |
| 1週間に3～4回 | 6  |
| あまり行かない  | 6  |
| 1週間に5～6回 | 1  |
| ほとんど行かない | 1  |
| 毎日       | 0  |

本学図書館の利用状況から見ると、取り組みを始める前の平成26年度の学生貸し出し冊数(1日)の平均は5.18冊、平成27年度は5.87冊、取り組みを始めた平成28年度は8.58冊となった。さらに、年間貸出冊数のうち、絵本を含む文学の分野における割合は、平成26年度は45.2%、平成27年度は47.3%、取り組みを始めた平成28年度は53.9%となった。本学は保育科だけではなく、生活福祉情報科の学生もいるので、明確に断言はできないが、この取り組みによって、学生の図書館利用が増えたと推測できるであろう。

- ⑦読書をしますか。(絵本ノート・授業に関する書物、マンガ、雑誌は省く)

| 割合       | 人数 |
|----------|----|
| あまり読まない  | 21 |
| 1週間に1～2回 | 16 |
| ほとんど読まない | 11 |
| 1週間に3～4回 | 5  |
| 1週間に5～6回 | 2  |
| 毎日する     | 0  |

学生の半数以上が「あまり読まない」「ほとんど読まない」と答えていることから、学業に関すること以外での読書はまだ少ないようである。

⑧あなたの好きな絵本を5冊教えてください。

| 題名            | 人数 |
|---------------|----|
| はらぺこあおむし      | 13 |
| はじめてのおつかい     | 7  |
| くれよんのくろくん     | 5  |
| りんごかもしれない     | 4  |
| おこでませんように     | 4  |
| おいしいのぼうけん     | 4  |
| おもちのきもち       | 4  |
| くだものさん        | 4  |
| たべてあげる        | 4  |
| やさいのおしゃべり     | 3  |
| 100万回生きたねこ    | 3  |
| やさいさん         | 3  |
| おふろだいすき       | 3  |
| こんとあき         | 3  |
| そらめくんのベッド     | 3  |
| へんしんトンネル      | 3  |
| ずーっとずっとだいすきだよ | 3  |
| ちょっとだけ        | 3  |
| たいせつなあなたへ     | 3  |
| かいじゅうたちのいるところ | 3  |
| きょうはなんのひ      | 2  |



|                |   |
|----------------|---|
| ちびゴリラのちびちび     | 2 |
| もうぬげない         | 2 |
| なつのおとずれ        | 2 |
| おへそのあな         | 2 |
| しろくまくんのホットケーキ  | 2 |
| バムとケロ          | 2 |
| ぼちぼちいこか        | 2 |
| かみさまからのおくりもの   | 2 |
| 3びきのやぎのがらがらどん  | 2 |
| どうぞのいす         | 2 |
| だるまさんが         | 2 |
| こんなかいじゅうみたことない | 2 |
| にゃーご           | 2 |
| もりのかくれんぼう      | 2 |
| ぐるんぱのようちえん     | 2 |
| ちか100 かいだてのいえ  | 2 |

このほかに『3びきのこぶた』をはじめ、159 作品があがった。作品に偏りがなかったのは、それぞれの学生が幅広い作品に触れた結果だと考えられる。

⑨2月の施設・保育園実習や6月の幼稚園実習で、絵本ノートは役に立ちましたか。

役に立った → 36名  
 特に感じなかった → 16名  
 役に立たなかった → 2名  
 無回答 → 1名

⑩「絵本ノート」作成により、たくさんの絵本を読んできましたが、たくさんの絵本を読むことで、あなた自身の感性や想像力は磨かれたと思いますか。

思う → 42名  
 わからない → 12名  
 思わない → 0名  
 無回答 → 1名

⑪保育者になるにあたって、たくさんの絵本を読んだことは、あなたの自信になりま

したか。

自信になった → 49 名

わからない → 5 名

自信になっていない → 0 名

無回答 → 1 名

⑫「絵本ノート」を作成したことで、達成感や満足感がありますか。

ある → 52 名

ない → 2 名

無回答 → 1 名

※ 上記の⑨～⑫で「無回答」であったのは同じ学生であった。質問⑨～⑭のすべてが無回答であった。質問⑨以降は、質問用紙の裏面にあったので、この学生は裏面にも質問があることに気づかなかったようである。

⑬「絵本ノート」を作成した感想を教えてください。(複数回答可)

| 感想                | 人数 |
|-------------------|----|
| ノートを書くのがたいへんだった   | 38 |
| 絵本が好きになった         | 28 |
| 絵本のよさがわかった        | 27 |
| 好きな作品ができた         | 25 |
| 楽しかった             | 20 |
| 好きな作家ができた         | 13 |
| 絵本について友達と話すようになった | 12 |
| 読むのがたいへんだった       | 5  |
| 面倒くさかった           | 1  |
| 嫌だった              | 0  |

「面倒くさかった」と答えた学生は、絵本を 15 冊しか読んでいなかった。絵本を読み、内容を分析して、それをノートにまとめるのが面倒だったようである。

22.5 % の学生が「ノートを書くのがたいへんだった」と答えている。絵本を読んでも、さまざまなことを感じるのだが、いざそれをそれぞれの項目について分析し、自分の言葉で書き表すことに時間を要したようである。しかし、「たいへんだった」と思いながらも、それを積み重ねることで、質問④にあったように、要約力、持続

力、表現力が向上したと実感できたと考えられる。また、この結果を見てうれしかったことは、「絵本について友達と話すようになった」と答えた学生が12人もいたことである。これは絵本に関心をもち、絵本に向きあっているということであり、大きな進歩である。授業の前後に、絵本を友達同士で見せ合いながら、話している姿もよく目にした。「絵本が好きになった」「絵本のよさがわかった」学生は32.5%、「好きな作家ができた」「好きな作品ができた」学生は22.5%おり、絵本をじっくり読んだ成果だと考える。さらに、「楽しかった」と感じてくれたことは、真剣に向き合ってくれた結果だと考える。

- ⑭「絵本ノート」についての感想、反省点、頑張ったことなど、自由に何でも書いてください。(自由記述)

| 分類         | 件数 | %     |
|------------|----|-------|
| 負担＋工夫      | 3  | 2.78  |
| 負担＋興味・関心   | 1  | 0.925 |
| 負担＋知識向上    | 2  | 1.85  |
| 批判、不満      | 0  | 0     |
| 大変さ、難しさ    | 3  | 2.78  |
| 大変さ＋満足感    | 5  | 4.63  |
| 大変さ＋喜び・楽しさ | 10 | 9.26  |
| 反省         | 22 | 20.37 |
| 興味、関心      | 1  | 0.925 |
| 希望         | 4  | 3.7   |
| 将来に有用      | 4  | 3.7   |
| 知識の向上      | 18 | 16.67 |
| 工夫         | 7  | 6.48  |
| 努力         | 6  | 5.56  |
| 達成感        | 3  | 2.78  |
| 満足感、楽しさ、喜び | 15 | 13.89 |
| 共感         | 2  | 1.85  |
| 提案         | 1  | 0.925 |
| その他        | 1  | 0.925 |

絵本100冊読みと「絵本ノート」作成を終えての感想などを自由記述してもらった回答を19の内容に分類をし、その件数と割合をまとめた。

「反省」が 20.37%と一番多く、「100 冊読めなかった」と回答したのが 8 件あった。「もっと計画的に読めばよかった」「たくさん読めばよかった」が 6 件、「ノートを丁寧に書けばよかった」「ノートが雑になった」が 6 件と、絵本を多く読むことができなかったことと、ノートを丁寧に書けなかった反省が目立った。「続かなかった」「持久力が足りなかった」という記述もあり、精神力の面での反省もあがった。

「知識の向上」も 16.67%と多く、「絵本をしっかりと読むことで、作者はこんなことを伝えたかったのかと考えるようになり、絵本の読み方が変わった」、「子どもに読んであげたいと思った本や、自分のお気に入りの本、これは子どもには難しいかなという本など、本当にいろいろな絵本を知ることができました」、「休みの日にいつも図書館に行くようになりました。そのおかげで絵本の他に声かけやリトミックの本などにも興味がでて、本というものが好きになりました」、「『こんなお話なんだ』と感じたり、『この絵本面白い、悲しい』と思ったりして、その 1 冊 1 冊の絵本について考えたりすることができたので、ためになりました」という記述があった。

「大変さ、難しさ」だけを回答したのは 2.78%と少なく、「絵本の内容を要約するのが大変だった」という記述が 2 件あった。「希望」の分類では「内容を上手に要約することができるようになりたいと思いました」とあり、学生にとって、他の文章と比較すれば短い内容である絵本でも、内容を要約するのが難しかったようである。上記の質問④で「要約力」が向上したと答えた学生が多かったことから、絵本の内容をまとめることは学生の要約力を磨く一つの手立てになったと考えられる。大変ななかにもそこに満足感や楽しさを感じた学生も多くいた。

「大変さ+満足感」「大変さ+喜び・楽しさ」は、あわせて 13.89%で、「絵本ノートの作成は少し大変でしたが、絵本が好きなので楽しかったです」、「初めは正直、絵本ノートを書くのが面倒でした。私は絵本を読むほうではなかったので、何を讀んでいいのか考えるのも大変でした。しかし、絵本ノートを作成していく中で達成感が生まれたり、絵本の面白さに気づいていき、このノートを作っていくのも楽しくなっていました」、「最初、絵本を 100 冊も読むと聞いて、絶対に大変だと思いました。実際にやってみると 2～3 冊で飽きてしまっていました。でも前に比べて図書館で本を借りることも増えたり、バイトの休憩時間にも絵本を読んでいて、自分でもこんなに絵本を読んだのは初めてだと思うほどでした」という記述があった。読書習慣のない学生にとって、絵本 100 冊という量の多さや 11 項目についてノートにまとめるという作業は、肉体的にも大きな負担であり、さらに面倒・大変という精神的な負担もあったといえよう。しかし、記述にもあったように、絵本読みとノート作成を続ける過程で、絵本の魅力に気づいてくれたことがうかがえる。

上記と同様に 5.555%が負担を感じながらも、その中から自分なりに工夫したり、興味・関心を抱いたり、知識向上したと回答し、「最初はとてもめんどくさい思っていて、内容もうすく書いてしまいました。でも、頑張って絵を描いてみたり、



色を使ってみただけで、何の本かわかるようにしました」、「本当に最初だけ、でした。だんだんする事を面倒くさがり、嫌々というか、させられているという感じで、絵本ノートをしてきたように思います。申し訳ないです。しかし、絵本に興味を持てるようになった事は嬉しく思います」、「『目指せ 100 冊』と言われたときは、めんどくさいだろうなと感じていて、ただ 100 冊という数をこなしていけばいいと考えていました。しかし、いろいろな絵本を見ているうちに、その絵本にしかない良さや特徴があることに気づき、読むことが楽しくなってきました。なるべく、子どもの目線、大人の目線で読むように意識をして、子どもだと〇〇、大人だと〇〇と思うだろうなと考えるようになりました。絵本の中には大人でも楽しめたり、勉強したりすることができるものがあると知ることができてよかったです」という記述があった。

「工夫」「努力」は 12.04%で、「後から見てどんな絵本かわかるようにイラストを描くことを頑張りました」、「絵を描いてイメージできるようにした」、「絵本が何を伝えたいのかを読み取れるようにがんばりました」、「ただ絵本を読むのではなく、それぞれの作者の絵を楽しんだり、この絵本はどういうことを伝えたいのかを考えて絵本を読むようになりました。絵本ノートを見返してもすぐにどんな絵本だったか分かるように自分なりに内容にこだわって絵本ノートを作成しました」、「自分が将来ノートを振り返る時に見やすいように分かりやすいようにすることを心掛けました。どのような絵本で、読んでどう感じたかが一目で分かるよう感想を具体的に書くようにしました」という記述があった。どのような絵本かわかるように絵を描いたり、作者の意図を理解するために内容を熟読したり、ノートを見やすいようにしたり、さまざまな工夫がみられた。また、絵本ノート提出の際には、コメントを書いて返却をしていたのだが、「先生からのコメントがうれしかった。細かく見てくれて、ありがとうございます」（「その他」に分類）という記述があり、コメントを励みにしてくれていたこともわかった。

「達成感」「満足感、楽しさ、喜び」は 16.67%で、「自分のオリジナルの絵本ノートを作ることが楽しかった。達成感やいっぱい読むぞという気持ちになれた」、「私は決して絵が上手だとは思いませんが、絵をかくことが好きなので、絵本を読んだあとに絵をかくこともとても楽しみにしていました」という記述があった。

「批判、不満」の記述はなかった。絵本 100 冊読みと絵本ノート作成は自主的にしなければならないので、批判や不満の声があると予想していた。この課題を始める前に、取り組みの意義や重要性を話していたことにより、学生もこちらの意図を理解してくれたのであろう。また、この課題を進めていく過程や実習を経験することにより、学生自身も保育での絵本の必要性や重要性を感じてくれたのだと考える。絵本を読む目標冊数は決めてはいたけれども、あとはそれぞれの学生の自主性に任せていたので、「絵本の感想を書くことは好きだったけど、他の課題が増えてしま



うと忘れてしまっていた。1か月に〇冊と決められた方が辛くなく、もっと楽しく書けた気がします」という提案があった。今後の参考にしたい。

## 5、成果と課題

成果としては、「絵本を100冊読む。絵本ノートを作る」という目標を掲げ、それに向かって、学生たちが努力してくれたことである。初めは「たいへんだな、めんどろんだな」と思った学生が多かったが、次第に、絵本の魅力にひかれ、興味・関心をもって自発的な学習意欲が生まれ、その必要性や重要性を実習という形で実感し、地道に継続することにより、「たいへんだったけど、楽しかった」、「いい経験になった」、「いろいろなことを学べた」、「将来役に立つと思う」という、努力の結果としてプラス思考にとらえていることがわかった。このように、学生自身が達成感や満足感を味わうことができたことは、学生にとってひじょうに有意義な取り組みであったと考える。

次に、実習での経験について、「絵本ノートは本当に実習で役に立ちました。どんな本を読もうか迷った時に読んだことがあるのを読んだら、読み方も変わってくるし、伝わり方も違ったから絵本ノートをしてよかったです」(A)、「絵本ノートがなかなか続かなかった。実習では、1日に3冊ほど絵本を読むので、そのたびに図書館で絵本を探し、とても苦労しました。絵本ノートがあれば、分かりやすかったのだと思いました。絵本ノートの大切さがわかりました」(B)とあった。Aの学生は絵本ノートをまじめに取り組んでいたのも、実習で役に立ち、読み方を工夫したり、子どもたちへの伝わり方も考えることができ、余裕をもって読み聞かせに臨めたようである。反対にBの学生は、絵本ノートがうまく進んでいなかったために、読み聞かせに苦労したことがうかがえ、身をもって絵本ノートの利用価値を感じてくれたようである。さらに、「絵本ノートがなかったら実習で読み聞かせをするときに何を読もうか悩んでいたと思うので、自分の武器になったと思いました。できるだけ読み返した時に、どのような内容だったのかを思い出せるようにまとめるというところを一番大切に書いていたので、就職した時に自分で作った絵本ノートが有効活用できるようになったら良いなと思いました」という記述があり、学生に自信がついたきっかけになったことをうれしく思う。

「100冊読む」ことに重点を置いて、絵本ノートが手薄になり、内容を深く見ることができない学生もいた。反対に、読んだ冊数は少ないが、丁寧に読み込み、詳しく書いた学生もいた。ただ絵本を読んでノートを書く、という一連の作業としてこなすのではなく、一つ一つの作品に対して向き合い、作品を明確に分析し、子どもたちの笑顔を想像しながらノート作りができるように導いていかなければならないと考える。さらに、1年以上かけての取り組みなので、学生たちの意欲を継続させるような意識づけが必要であろう。

## 6、まとめ

今回の絵本100冊読みと「絵本ノート」の取り組みにおいて、まず、「自主的に学習に取り組むこと」が一番の目標であった。上記の結果から、多くの学生が意欲的に自主的に取り組むことができたといえよう。また、「学業において達成感や満足感が生みだせるか」については、94.5%の学生が「達成感や満足感がある」(質問⑫)、89.1%の学生が「自信になった」(質問⑪)と回答した。このことから、今回の取り組みが、学生にとって、自主的に学習に取り組む、そこに達成感や満足感を自ら感じることができたということは、学生にとって大きな自信につながったことがわかる。

数多くの絵本に触れることで、子どもの年齢や発達段階に応じた絵本の選別ができるようになり、学生自身も豊かな創造性や感性を育むことができたと考えられる。さらに、この取り組みを行うことにより、子どもの育ちの変化に対応する能力が身につく、絵本に関心を向け、考える力を養うことができ、保育者としての力量を育てるうえでの土台作りになり得たと考える。今後も学生が意欲的に学習し、満足感を得られるような取り組みを続けていきたい。

## 謝辞

本研究にご協力いただいた学生の皆様に心より感謝いたします。

## 注

- 1) 2016年1月20日に「保育連携促進事業研修会」を実施した際に、研修会に参加された保育者43名にアンケートにご協力いただいた。その結果、絵本の読み聞かせを平均して1日に2、27冊していることがわかった。さらに、絵本の読み聞かせの効果も調査し、その一部を記載した。
- 2) 学生にわかりやすくするために、「絵本ノート」と名付けた。
- 3) 皆川晶(2016)「短期大学生による話し言葉と書き言葉の認識と実態について」近畿大学九州短期大学研究紀要 第46号 pp.4-5
- 4) 1)の「保育連携促進事業研修会」において、「若い先生は新しい絵本をたくさん知っていてそれを読んでもくれるのはよいのだが、昔話をほとんど読んでくれない。だから、3冊に1冊の割合で昔話を読むことをお願いしている」という保育者の声を多く聞いたため、学生にも昔話を進んで読むことを勧めた。

## 参考文献

- (1) 学校教育法(2016)「第9章 大学」第83条
- (2) 見館好隆・永井正洋・北澤武・上野淳(2008)「大学生の学習意欲、大学生活の満足度を規定する要因について」日本教育工学会論文誌 32号(2) pp.189-196

- (3) 鈴木正和 (2012)「絵本を 100 冊読み、ノートを作成する意味に関する考察」山陽学園短期大学紀要 第 43 巻 pp. 16－32
- (4) 厚生労働省 (2008)『保育所保育指針』「第 3 章 保育の内容」「1、保育のねらい及び内容」「(2) 教育に関わるねらい及び内容」「エ言葉」
- (5) 近畿大学 (2015)「九州短期大学図書館報告資料」「平成 26 年度貸出冊数・人数統計」「平成 26 年度分類別統計」p 9
- (6) 近畿大学 (2016)「九州短期大学図書館報告資料」「平成 27 年度貸出冊数・人数統計」「平成 27 年度分類別統計」p 9
- (7) 近畿大学 (2017)「九州短期大学図書館報告資料」「平成 28 年度貸出冊数・人数統計」「平成 28 年度分類別統計」p 9
- (8) 村中由紀子・三浦正雄・諏訪英広 (2005)「保育士養成課程における『絵本 100 冊よみ』実践の成果と課題—A 短期大学幼児教育学科卒業生に対する質問紙調査をもとにして—」山陽学園短期大学紀要 第 36 巻 pp. 61－74
- (9) 生野金三 (2010)「領域『言葉』の研究」埼玉学園大学紀要 (人間学部篇) 第 10 号 pp. 353－358